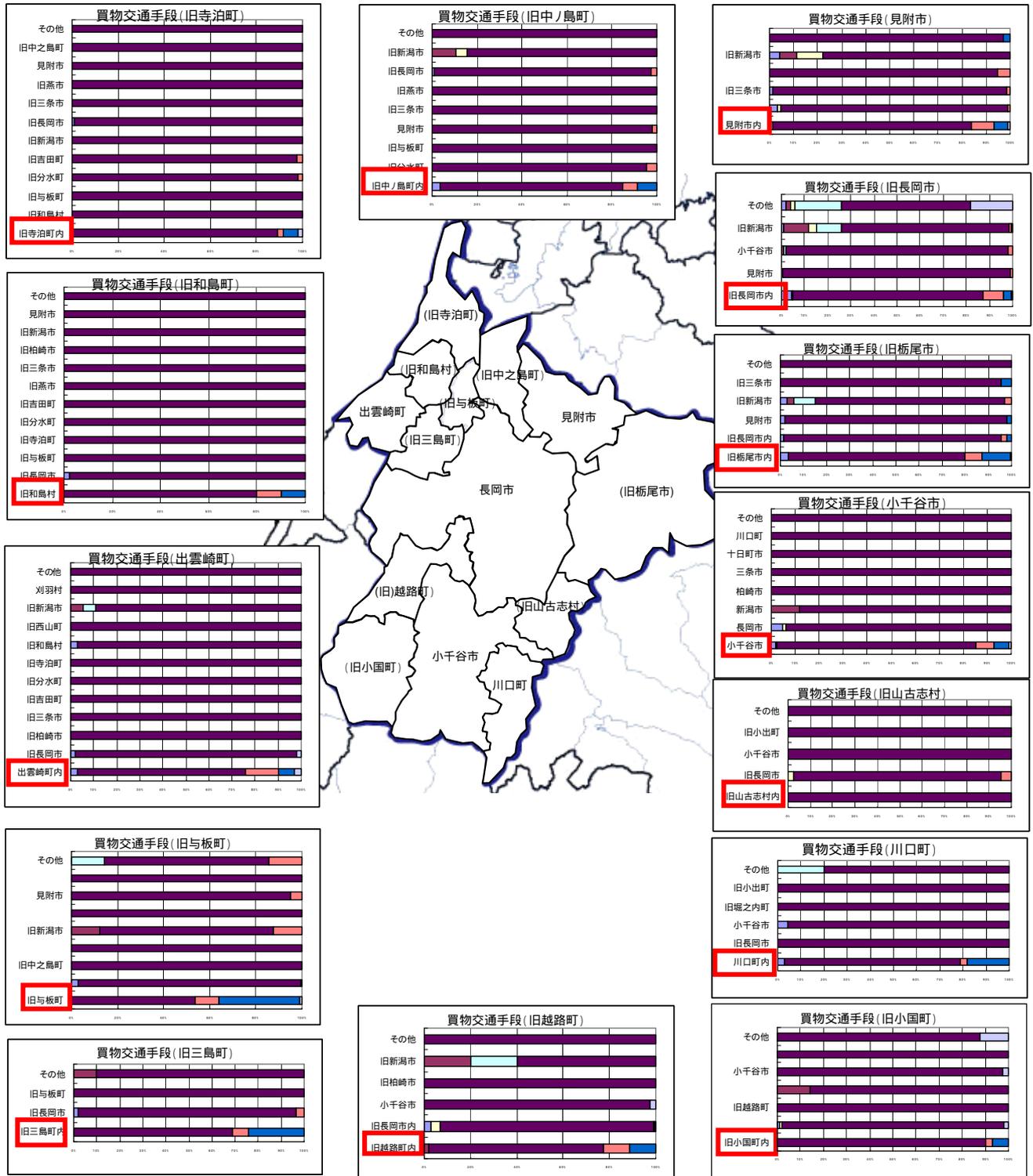


生活の足は自家用車が中心となり気象状況にも安定した地域交通基盤の充実  
 買物の移動手段は、自家用車に依存しており、高齢化や雪などの気象状況の影響  
 による生活の不安要素が高い。



【出典】新潟県「中心市街地に関する県民意識・消費動向調査報告書」(平成19年)

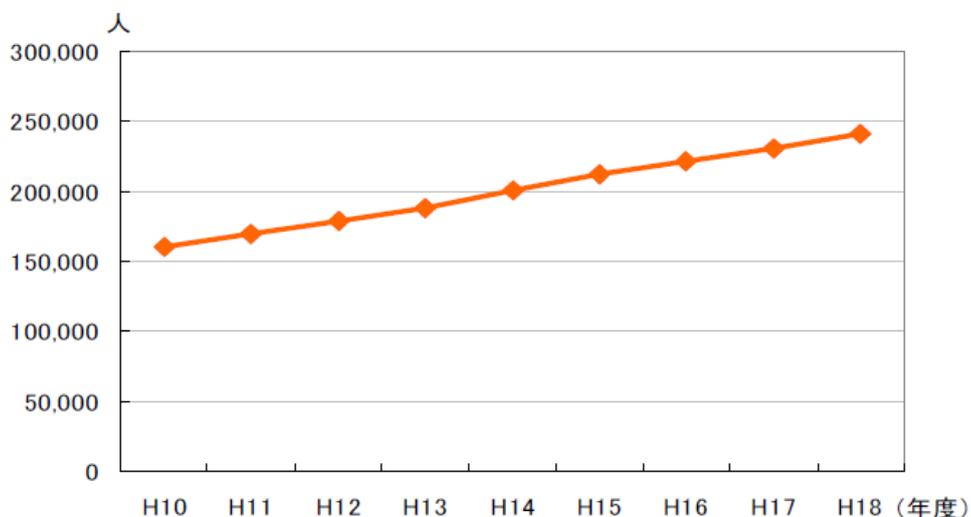
図 5-96 買い物時の交通手段

高齢化の進展に伴い、自家用車利用から公共交通への移行が必要

高齢者の運転免許保有が増加する中、高齢者が交通事故の第一当事者となる事故の発生も増加しており、今後高齢化の進展の中にあっては、公共交通への移行が望まれる。

しかし、路線バス網の状況を見ると、圏域全体にまでバス網が行き届いておらず、今後、路線の維持にも留意しつつ、高齢者の足となる公共交通手段の確保が望まれる。

一方、山古志（太田地区）では、地域住民が主体となり、コミュニティバスを運行するなど、新しい取組も見られている。



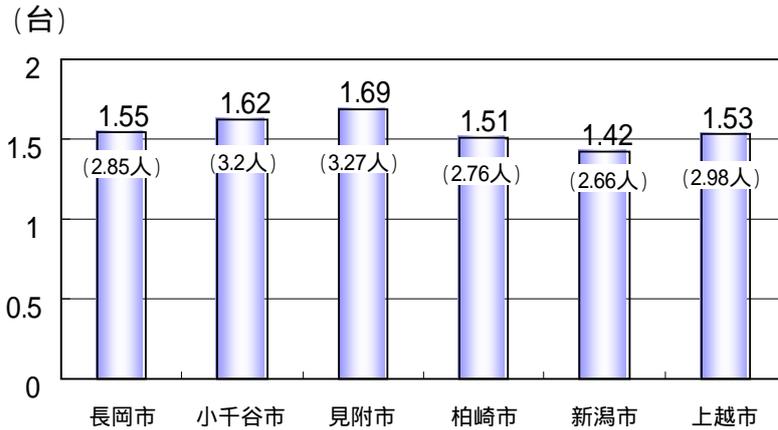
【出典】新潟県「交通年鑑」（平成18年）

図 5-97 新潟県内の高齢者（65歳以上）の運転免許保有者の増加



【出典】新潟県「交通年鑑」（平成18年）

図 5-98 新潟県内の交通事故における年齢階層別第一当事者事故割合の推移



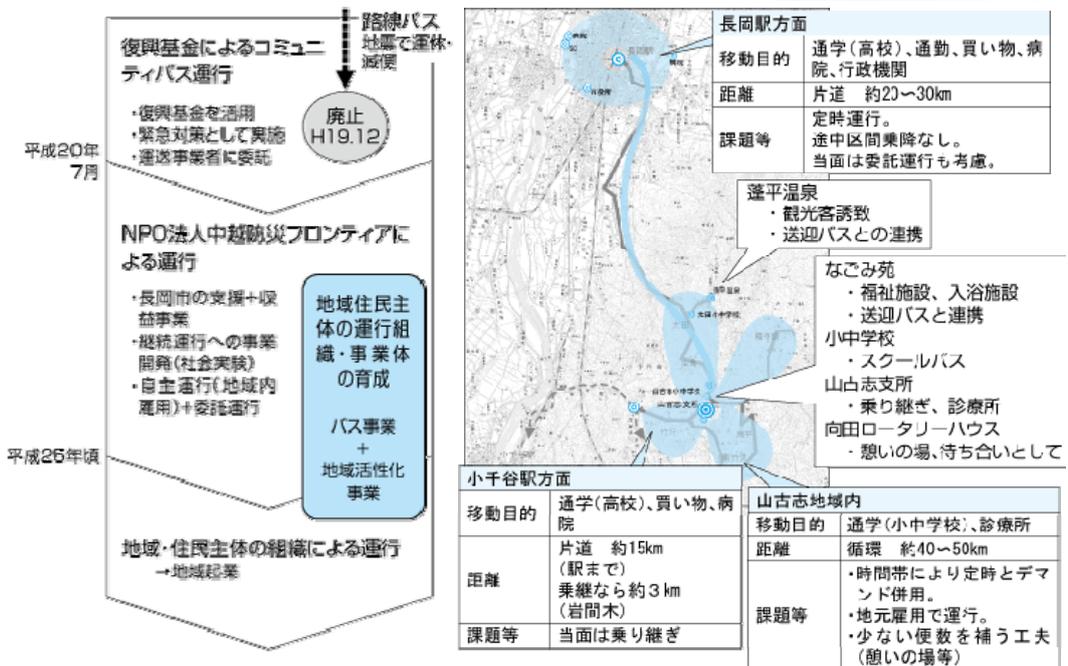
( )内は平均世帯人

【出典】自動車検査登録協会「市区町村別自動車保有車両数」(平成17年3月末)

図5-99 世帯あたり自動車保有台数

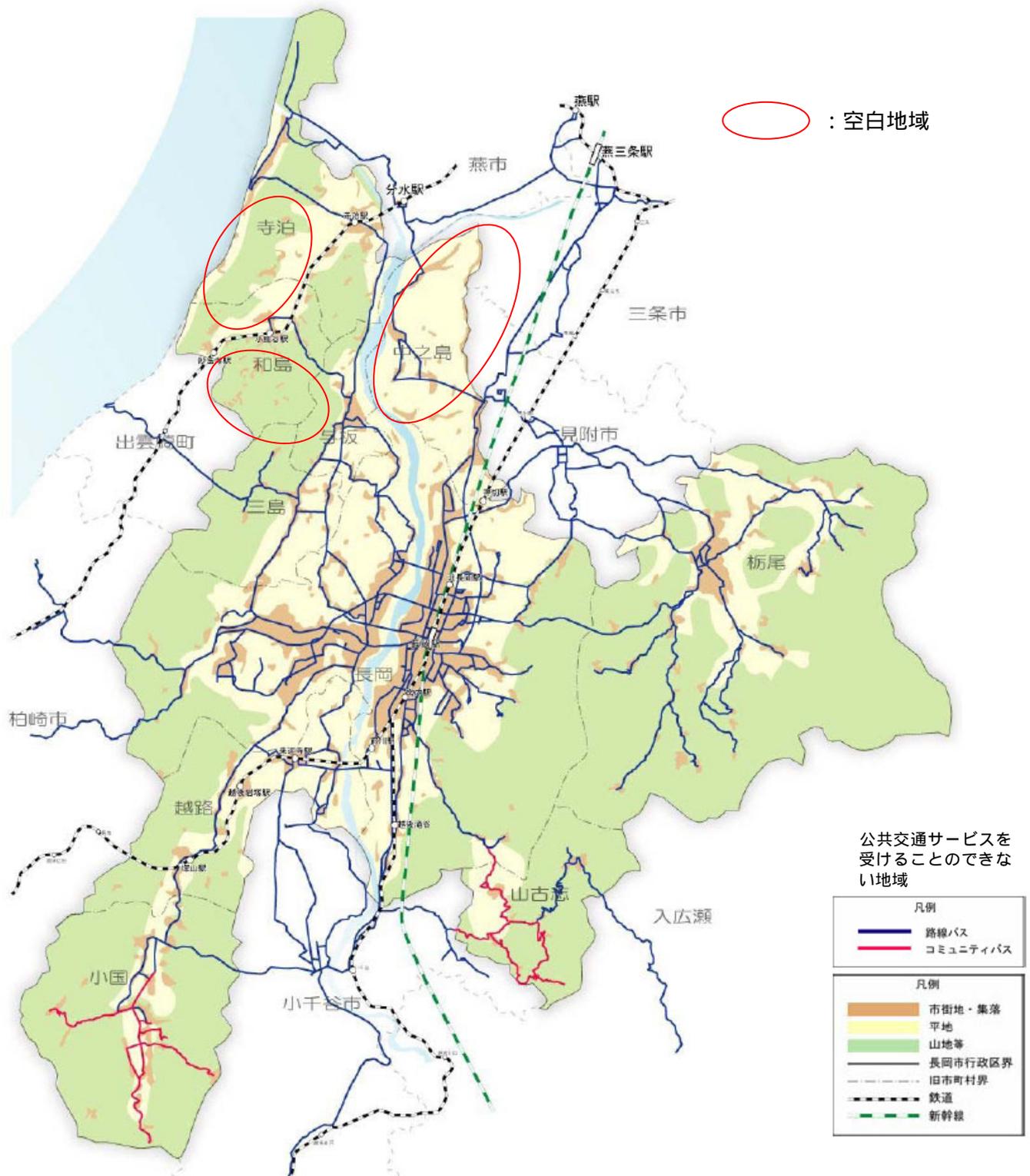
<参考> 中山間地の交通確保：山古志太田地区のクローバーバス

期間限定。山古志太田地区のコミュニティバス運営を先導。地域内の全世帯がNPO会員となりスタート。運営に地域特性と自由な発想を取り入れるため運賃は無料。地域の資源・拠点施設を活用。



【出典】(社)北陸建設弘済会 HP「北陸の視座」vol.20

図5-100 クローバーバス(山古志太田地区)



【出典】長岡市「長岡市公共交通基本計画（素案）」（平成 20 年 7 月）

図 5-101 路線バス・コミュニティバスの運行経路

中山間地域の生活の足となる公共交通の安定的な運行の確保が必要

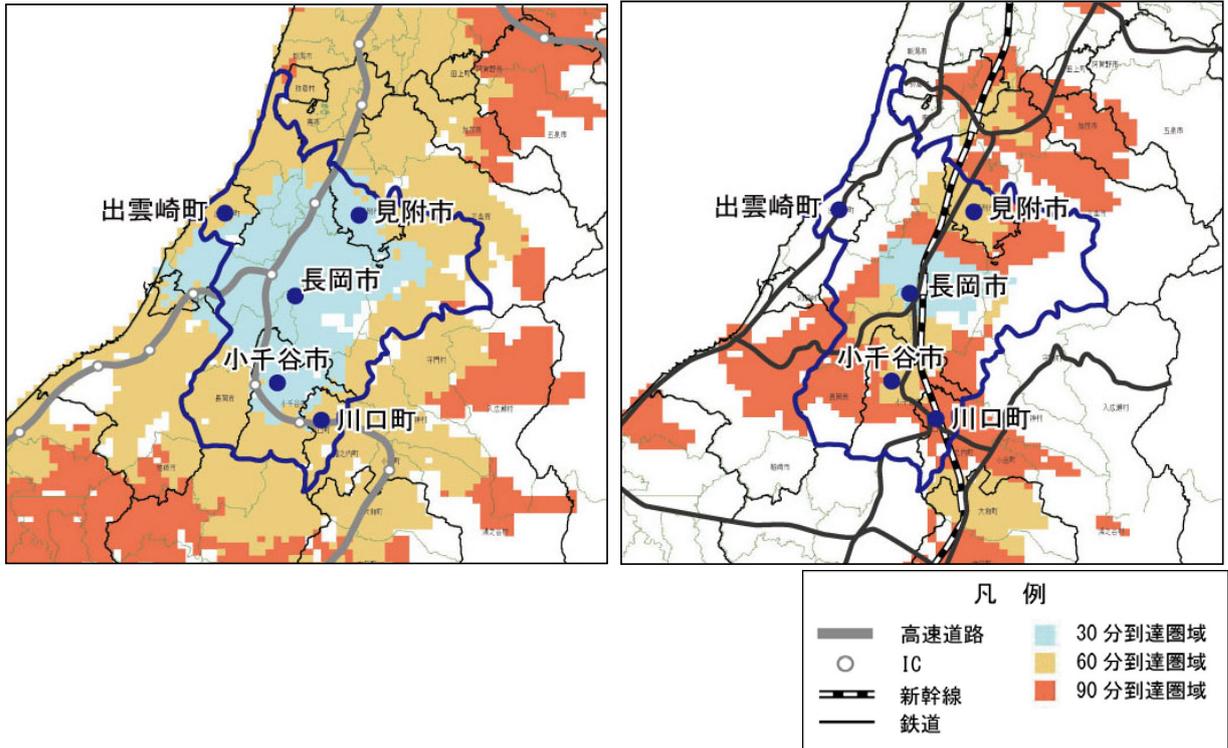
長岡市の中心地からの時間到達圏は、自動車では概ね 30 分であるが、鉄道利用では到達できない区域が存在し、バスなどの公共交通を利用する必要がある。

長岡駅を発着するバスは減少しており、中山間地域の暮らしは自家用車が必要となるが、著しい高齢化を背景として安全性に問題が生じる。

高齢者の足となる路線バス等の維持への住民の期待は大きいものの、維持コストは増加傾向にあり事業者の負担は増加傾向にある。

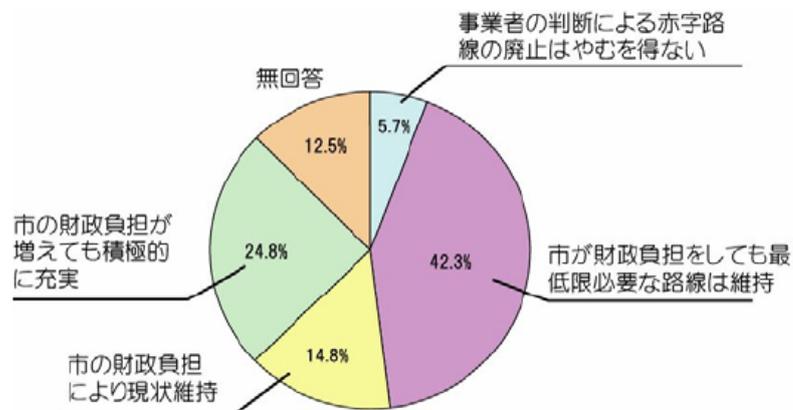
<自動車>

<鉄道>



【出典】NITASにより作成

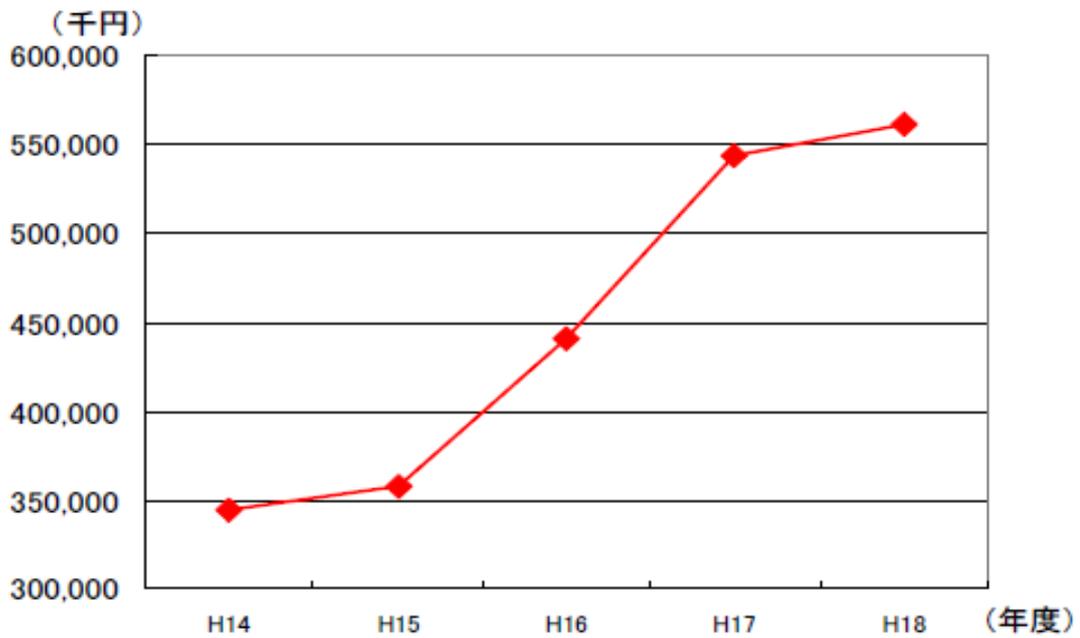
図 5-102 交通手段による時間到達圏（起点：長岡市役所）



N=1,450

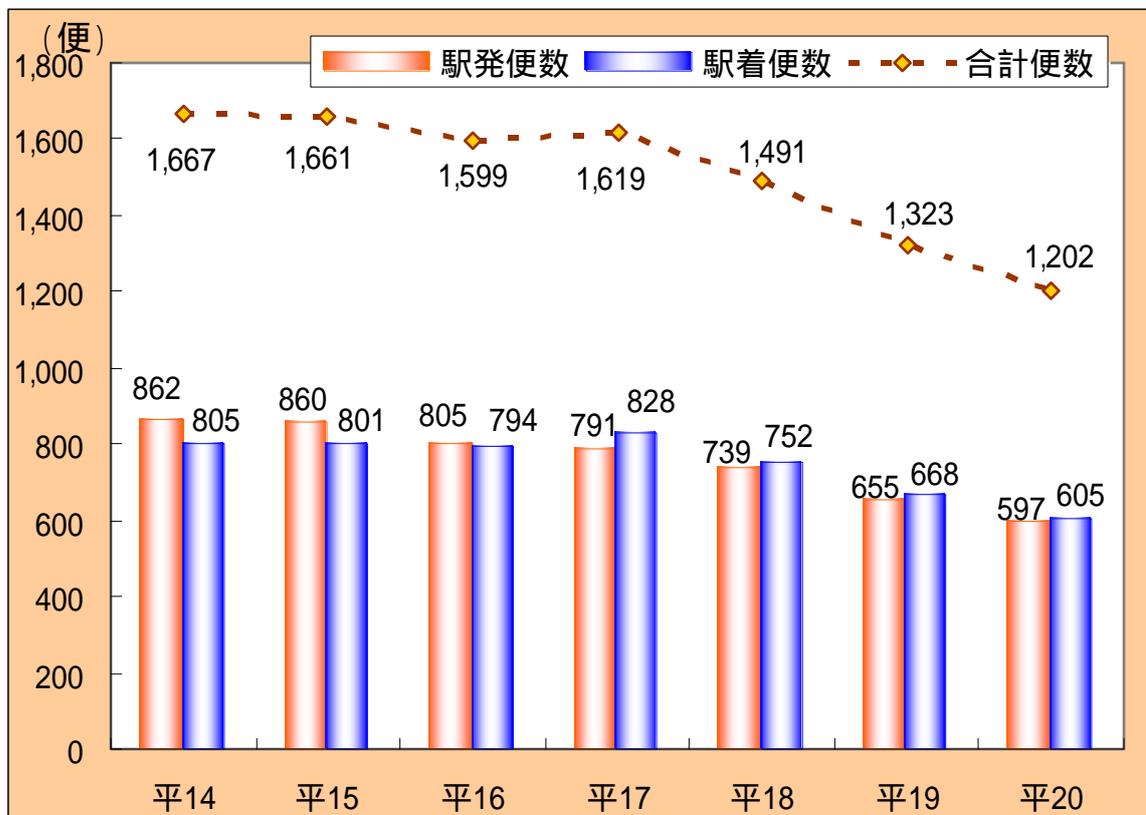
【出典】長岡市「長岡市公共交通基本計画（素案）」（平成 20 年 7 月）

図 5-103 市の路線バス維持への財政負担への市民意向



【出典】越後交通（株）

図 5-104 増加する路線バスの経常損益（赤字額）



【出典】長岡市中心市街地活性化基本計画

図 5-105 長岡駅発着の路線バス一日当たり運行数の推移

持続可能な国土管理と豊かな国民生活の実現に向けた中山間地の維持存続が必要  
 国土形成計画（全国計画）にも位置づけられるように、中山間地は国土保全上重要な機能を多数有している。これら機能を保全していくため、中山間地の暮らしを維持する必要がある。

国土形成計画（全国計画）における中山間地域の位置づけ（「国土形成計画（全国計画）」より抜粋  
 （中山間地域の役割）  
 平野の外縁部から山間に至る中山間地域は、一般的に傾斜・小区画農地等農業生産性が低いことに加え、都市への産業・人口の集中が進む中で、その多くは過疎化、高齢化が進展し、生活の利便性も低下している。しかしながら、国土の多くの部分を占め、国土保全、水源かん養、自然環境の保全などの上で重要な役割を果たしていることに加え、棚田等地域特有の個性や魅力を有し、安らぎや癒しの場となっているほか、我が国の伝統文化の一翼を担っている地域が多い。また、今後、我が国全体として人口減少、高齢化が進展する中で、中山間地域では高齢者を中心とした地域活性化のための先進的な取組も行われている。このように、中山間地域は持続可能な国土管理と豊かな国民生活の実現の観点から重要な意義を有している。（以下略）

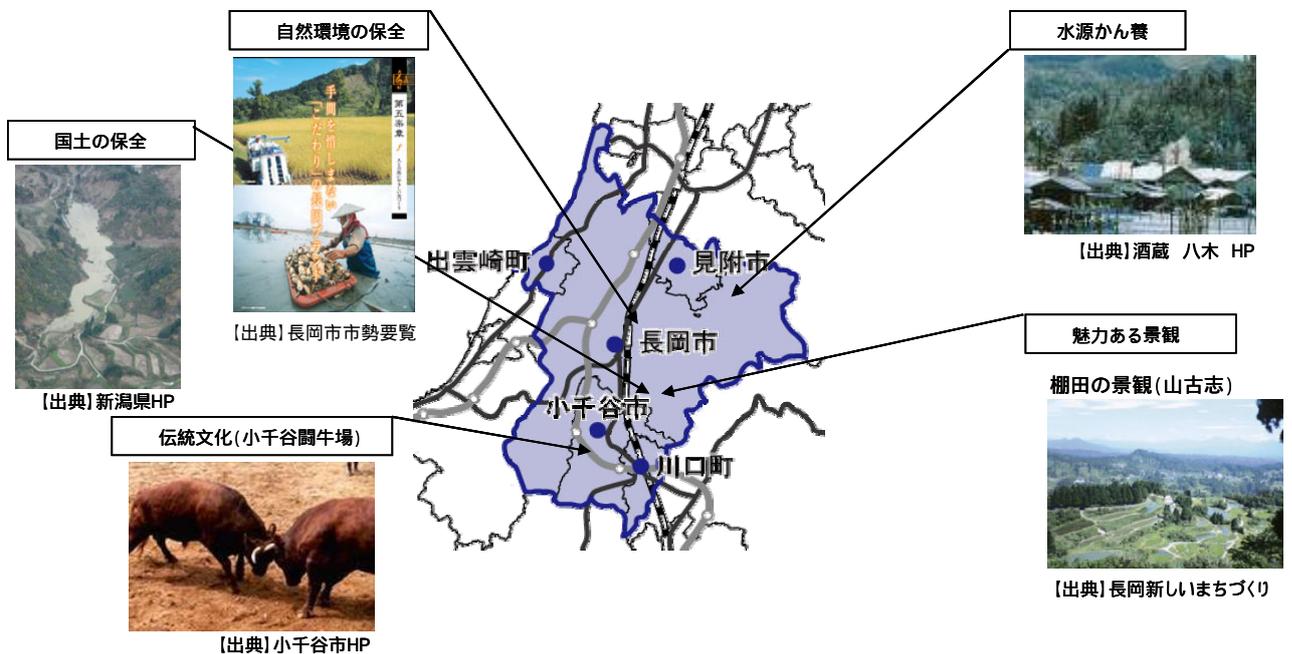


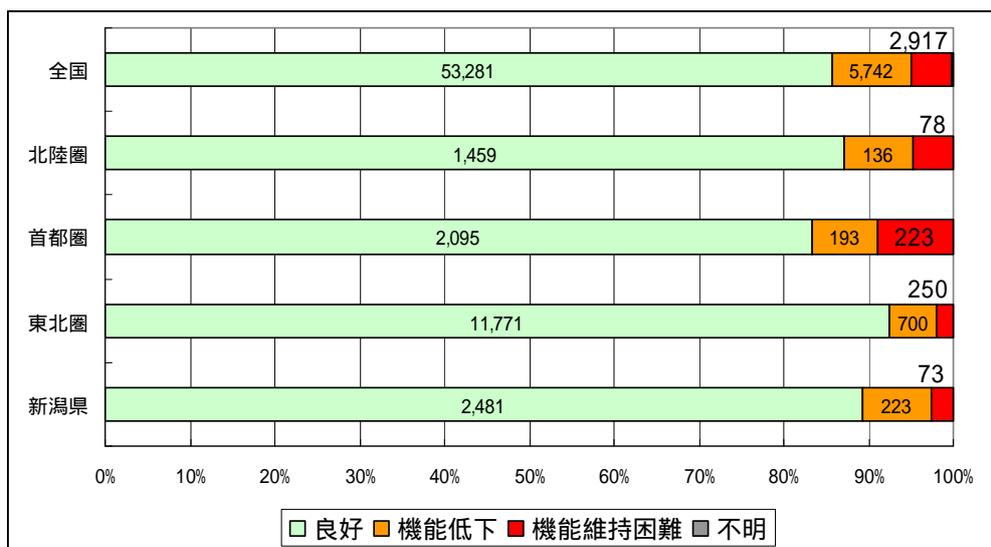
図 5-106 長岡都市圏の中山間地

集落機能の低下または維持困難と考えられている集落が県下で 10%以上存在しており、集落存続のための対応が必要

長岡都市圏の中山間地において、集落機能の維持が困難な集落が存在している。消滅した集落の多くの地域では、国土保全や水源かん養などの機能の低下・維持困難が生じており、集落存続のための対応が必要である。

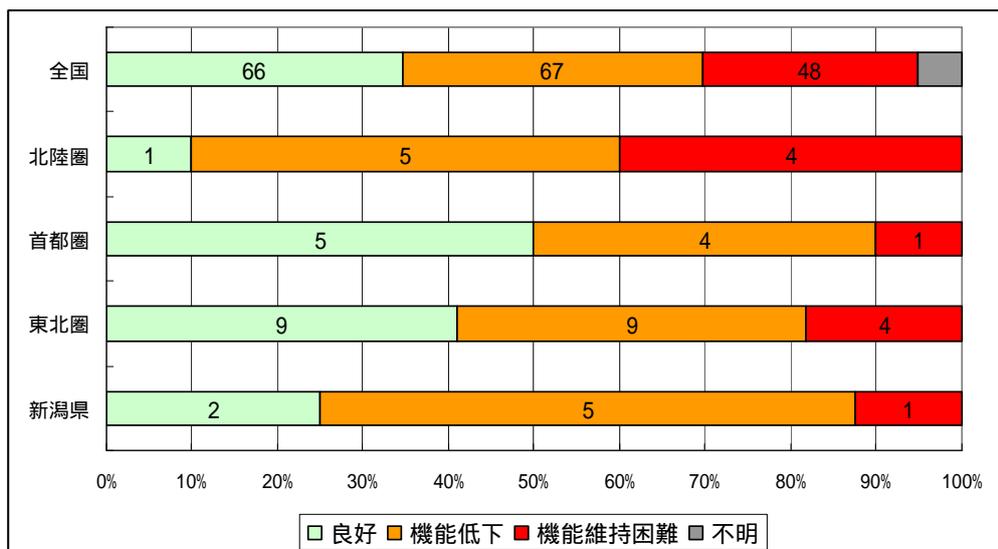
**集落機能**

- ・資源管理機能：水田や山林などの地域資源の維持保全に係る集落機能
- ・生産補充機能：農林水産等の生産に際しての草刈、道普請などの相互扶助機能
- ・生活扶助機能：冠婚葬祭などの日常生活における相互扶助機能



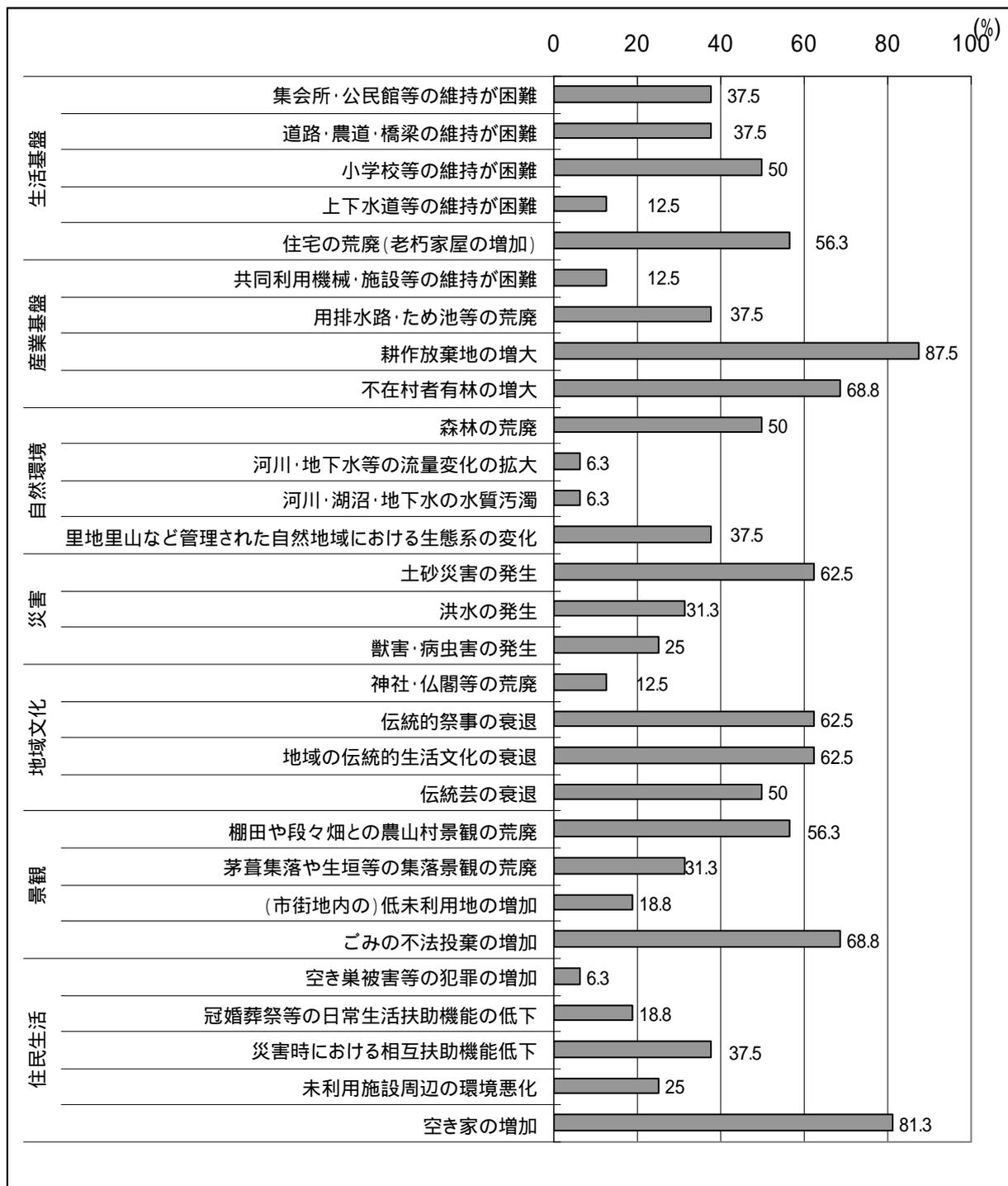
【出典】新潟県「過疎地域における集落等の状況に関するアンケート調査結果」(平成 19 年 9 月)

図 5-107 集落機能の維持状況



【出典】新潟県「過疎地域における集落等の状況に関するアンケート調査結果」(平成 19 年 9 月)

図 5-108 消滅した集落の跡地管理の状況

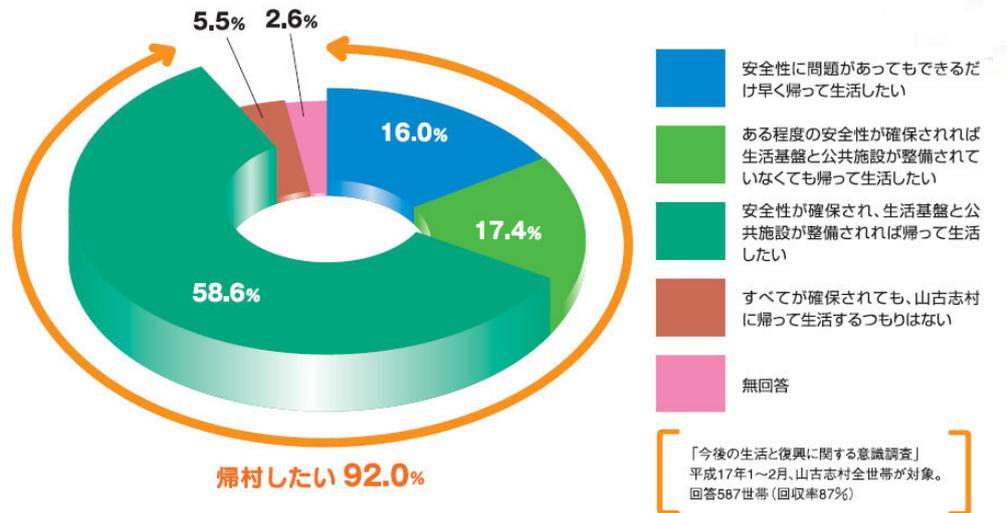


【出典】新潟県「過疎地域における集落等の状況に関するアンケート調査結果」(平成19年9月)

図 5-109 集落での問題の発生状況

地震の復興経験から得られた中山間地域再生のモデルとして経験を活用していくことが必要

中越地震によって、壊滅的な被害を受けた旧山古志村では、基盤の再生や暮らし再生への取組を通じて、被災前への回帰から、従前以上の地域活性化への取組を進め、一定の成功を収めつつあり、全国の中山間地域再生の先駆的なモデルとなる。



【出典】長岡新しいまちづくり

図 5-110 帰村意向（全村避難となった旧山古志村の村民の帰村意向）



【出典】中越復興市民会議 HP

図 5-111 復興モデル住宅



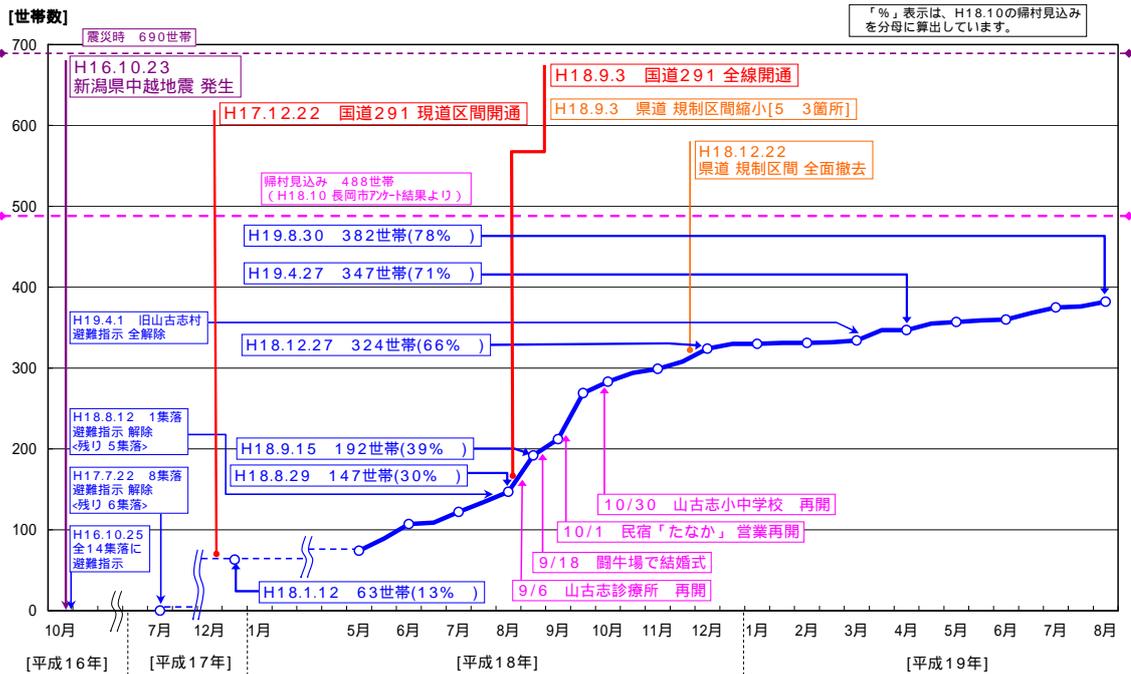
【出典】中越復興市民会議 HP

図 5-112 「やまこし帰村式」（平成 19 年 12 月 23 日）

表 5-12 被災者生活支援ネットワーク・NPO 等

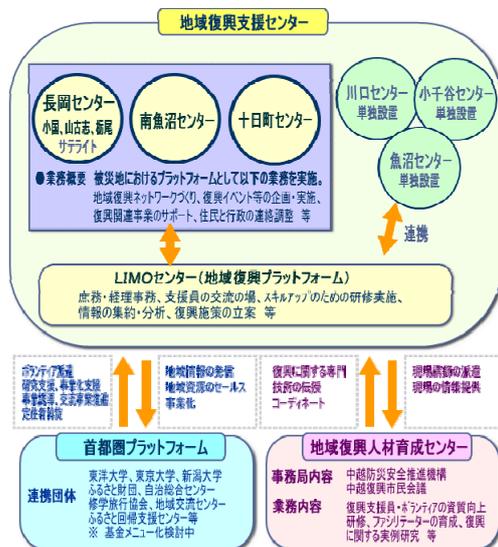
長岡市 (8 団体)	中越復興市民会議、新潟県中越地震大地復興推進会議、山古志住民会議、多世代交流間、にな・ニ～ナ、NPO 法人復興支援ネットワークフェニクス、中越みどり復興アクション、NPO 法人 MTN サポート、NPO 良寛の里活性化研究会
小千谷市 (2 団体)	NPO おぢや元気プロジェクト、おぢや復興ネットワーク
川口町 (1 団体)	えちご川口交流ネット REN

【出典】中越防災安全推進機構資料



【出典】国土交通省北陸地方整備局資料

図 5-113 旧山古志村の世帯数の推移



【出典】財団法人山の暮らし再生機構「地域復興支援センター」HP

図 5-114 地震復興への山の暮らし再生への産学官の連携